

ご 挨拶

一般財団法人全日本ろうあ連盟  
理事長 石野富志三郎

2011年3月11日、東北地方太平洋沖を震源とする1000年に一度とも言われる未曾有の大地震がこの東北の地を襲いました。連盟も、震災から今日にいたるまで、被災された方々への支援を続けています。本日、ここ東北の地、山形県において、全国からの参加者を迎え、第61回全国ろうあ者大会を開催する喜びを、ここに集う皆さんと分かち合いたいと思います。

昨年度、連盟は、障害者総合支援法に基づいた「意思疎通支援事業」における都道府県及び市町村のためのモデル要綱・ガイドラインを作成しました。全国どこであっても、安心して情報保障を受けることができるような仕組みが必要です。それは、決して特別な要望ではなく、私たちの権利なのです。

障害者権利条約が2006年12月に採択されてから6年余りが過ぎ、すでに130か国が批准をしています。我が国は今なお批准していませんが、この条約の批准に向け、本年4月「障害者差別解消法（案）」が閣議決定されました。これから、この法律の成立、そして3年後の施行に向け、「差別事例」や「合理的配慮」を含むガイドラインの策定、地域協議会の設置など、様々な取り組みが始まります。

障害者が障害を理由とする困難に直面すること、その困難を放置することは「差別」であり、その差別を解消することは国の責任であると明確に示されることは、私たちにとって大変大きな一歩です。ろう者のための「情報アクセス・コミュニケーション」保障についても、この法律を受けて大きく変わっていくはずです。

連盟は、本年4月1日をもって「一般財団法人 全日本ろうあ連盟」と名称変更を行いました。名称の変更はありましたが、「ろう者の人権を尊重し文化水準の向上を図り、その福祉を増進すること」を目的とした私たちの願いは連盟創立から65年を過ぎた今でも変わることなく、私たちの運動を支える礎となっています。私たちろう者が「当たり前にある情報を、当たり前を受け取ることができる」、そういう社会の実現を目指してこれからも頑張っていきたいと思います。

最後になりますが、本大会開催にご努力いただきました実行委員会の皆さま、公私ともお忙しいところをご臨席くださいました山形県および山形市をはじめご来賓の皆さまに厚くお礼を申し上げます。

そして、本大会のテーマ「みちのくの山形で 絆を深める 笑顔のバトン」が示す通り、私たち自身の絆を強め、様々な思いを繋ぎ、差別のない後世に誇れる社会を築いていくことを誓って、私の開会の挨拶とさせていただきます。 \_